

科目番号	3	科目名	歴史からの問い		
英文科目名					
大学・短期大学名	滋賀			大学	
連絡先	滋賀大学学務課総務係				
	TEL :	0749-27-1017	FAX :	0749-24-5122	
担当教員	嘉藤 慎作			(経済 学部 准教授)	
実施方法	対面授業		遠隔授業	対面・遠隔併用	
教室名	初回授業時に窓口で案内	会場	彦根キャンパス		
授業期間	2025 年 10 月 6 日 (月) ~ 2026 年 1 月 26 日 (月) <毎週 月曜日> 時限・講時 16 : 10 ~ 17 : 40				
超過時の選考方法	書類により選考				
成績評価方法	定期試験 (筆記)	70			%
	レポート試験 (期末)				%
	平常点 (出席・授業態度)				%
	その他 (課題)	30			%
別途負担費用	なし		あり () 円		
その他特記事項					
<講義概要・到達目標>					
【授業の目的と概要】					
<p>本講義ではムスリム諸勢力が南アジア進出を開始した8世紀からイギリスによる本格的な植民地支配が始まる18世紀末までの南アジアの歴史について扱います。特にインドに成立したムスリム王朝に注目し、その歴史的展開を見ていきます。</p> <p>現代の南アジアには、インドを中心として10億人を超えるヒンドゥー教徒が暮らしている一方で、およそ5億人とも言われるムスリムも居住しています。近年南アジア地域は目覚ましい経済的な発展を遂げており、国際社会の中でも日々その存在感を増しています。そうした中で南アジア地域に関わるニュースを目にする機会も多くなりましたが、そこではインド・パキスタン関係の緊張やインド国内でますます深まるヒンドゥー教徒とムスリムとの間の対立関係などが頻繁に取り沙汰されています。今後も世界の中で重要性を増していくであろう南アジア地域情勢を理解することは大いに意義があることだと考えられますが、そのためにもイスラームの南アジアへの広まりおよびその在地社会に与えた影響を歴史的に学ぶことは不可欠になってきていると言えるでしょう。</p> <p>このような関心に基づいて、本講義では、主として南アジアにおけるムスリム諸勢力の進出やイスラームの拡大の歴史的展開を追い、それが現代南アジア社会を形成する上でどのような影響をもたらしているのかを考察します。その狙いは、南アジア地域世界の形成においてイスラームやペルシア語といった外部からもたらされた要素が大きく影響したことを理解して、現代南アジアの多様性の淵源についての理解を深めることにあります。</p>					
【授業の到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・南アジアにおけるイスラームの展開およびイスラームが社会に与えた影響について理解し、説明できるようになる。 ・南アジアの特徴の1つである社会・文化的多様性について理解を深める。 					
<p>以上はディプロマ・ポリシーにおける「(1) 社会人としての幅広い知識と汎用的能力」のうち、「社会に関わる多様な学問に接し、広い知識と基礎的な考え方を習得している」、「多様な人と協働するためのコミュニケーション能力と規範を備えている」、「国際社会に貢献するためのグローバルな見識と異文化間コミュニケーション能力を習得している」に該当します。</p>					
【事前学習・事後学習など授業時間外の学習】					
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、配布される講義資料に事前に目を通し、当該回の内容の流れを確認する(0.5時間)。 ・毎回、講義後に講義内容の復習をする(0.5時間)。 ・講義内で紹介された関連する文献のなかで関心のあるものに目を通す(3時間)。 					

<授業スケジュール>

回	月日	テーマ・キーワード
1	10月6日	イントロダクション / 南アジアにおけるイスラーム
2	10月13日	ムスリム諸勢力の南アジア進出
3	10月20日	デリー・スルターン朝の時代
4	10月27日	デリー・スルターン朝時代の社会と経済
5	11月3日	デカンにおけるムスリム諸王国の展開
6	11月10日	ムガル朝の成立: バールとフマーユーン
7	11月17日	ムガル朝の発展: アクバル
8	11月24日	ムガル朝の拡大: ジャハーンギールとシャージャハーン
9	12月1日	ムガル朝の繁栄とその曲がり角: アウラングゼーブ
10	12月8日	ムガル朝時代の経済
11	12月15日	ムガル朝時代の社会と文化
12	12月22日	ムガル朝の衰退とマラーター同盟の興隆
13	1月5日	イギリスによる植民地支配のはじまり
14	1月19日	大反乱とムガル朝の終焉
15	1月26日	まとめ

<教科書・参考書>**【参考書1】**

ISBN 9780141985398

書名 India in the Persianate Age : 1000-1765

著者名 Eaton, Richard Maxwell, Richard M. Eaton

出版社 Penguin

出版年 2020, c2019

【参考書2】

ISBN 9784634462090

書名 南アジア史

著者名 小谷, 汪之, 1942-, 小谷汪之 編

出版社 山川出版社

出版年 2007.8

【参考書3】

ISBN 9784634462113

書名 南アジア史

著者名 長崎, 暢子, 1937-

出版社 山川出版社

出版年 2019.3

【教材に対する補足情報】

講義の各回で配布するスライド資料に基づいて進めます。より詳しく知りたいという方は、まず参考書に挙げている書籍を手にとることを勧めます。